一休諸國物語圖繪

五

へ 13
603
5

603
5

休諸國相模國會巻之

一休和尚

そもそも一休和尚は京都堺の生まれ。母は堺の
のきしふ小の山へ。横ぶひ。わらわ。の
あらそう。中子。扇をあつめて。叶ぬと。
ものやあるとぞ。ぞ立ちうつ入らうえ。
ぞまでも。横ぶひの生まれ。
せく。つまりつまりも。高山こえてひとやまれ。
やがて。作あまり。ゆまふいて。
和尚をとらくとうえ。
と作まうる

○

和尚。結髪。山へ。門弟。
うつしも。高山。谷の。梅。
まりて。月出。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山潮等一
枝来神
山客成群
數萬人
山海浪高
船行々
山樓鐘動
月輪々
山龍吟落
碧雪漲
山谷洗流
煩惱塵

山里放光
三社景
山花猶馥
本宮春
一休老人
偶題

こゝの終海山　木うり谷のこゑ
へあひのうゝ　ゑぶのこゑ
とあちこちこゑまで。うの傍そもそもさいらいやゝ
つんつんまつのうまこしのとものぞこゝろこそ
ゆいのうゝとうんゝ　終ゝこゝ　地をゝ孔
い坂ゝなまで。うの東彼ゲ待と出ゝゝと

山伝

山を菜末

山ちむ行傍問

山花茂茂林　山遠路山深
山雲飛行々　山水碧沉々
山鳥巣偷食　山猿樹抱吟
山僧来問道　山客還相尋

山ゝ化粧茂林。行。良。道

山を路出係。沈。吟。ゝ。

山ゝの紫沈花。相

山係相ゝ

山ゝ

○

かゝ書いゝゝゝ

[illegible]

海中を毎日魚　名を[illegible]の[illegible]魚
面白背[illegible]　人不食[illegible]魚

呼鳴　扁武　又次郎　金毫　魚形

波羅　又十に　紙業　又十に

合〻野[illegible]一連百八[illegible]のきりとり

きりく[illegible]つと申け

未年十七寅の年角のなりを[illegible]

[illegible]

[illegible]

とを。[illegible]供[illegible]

なれ[illegible]代〻[illegible]

相[illegible]

○[illegible]

註[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○我[illegible]

きゝのひのまつ[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○扨一休和尚の四代袋い[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ものとあり。若もなくうつくしきあるさまひとしく。庵[illegible]の物[illegible]又くさ田金人がまぐ[illegible]と[illegible]ぐ[illegible]。[illegible]ん[illegible]。[illegible]我が[illegible]あるといふ[illegible]ぐ[illegible]あつう。そのうぐまでのん若きあるこがまさひなるこ作[illegible]ま[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]い[illegible]と作[illegible]。一休[illegible]あ[illegible]一句やて[illegible]まあ[illegible]せんとて

月なくとうくこころふ[illegible]ぬ

[illegible]人のさとうやうんいつまを[illegible]ぬ[illegible]

父母もなくとうとうおの我[illegible]ぬ[illegible]ふ

[illegible]のと知ずとうぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

[illegible]日のうぐ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]し[illegible]一[illegible]しておうう[illegible]ん[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]ものさうや[illegible]なう[illegible]

とあ[illegible]。一休[illegible]ぬ[illegible]。

一[illegible]

いまはやあうよりかぶ[illegible]

月のいうぐ[illegible]ぬ[illegible]

とうのひく。[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

○[illegible]の人[illegible]の[illegible]と[illegible]年を。[illegible]

[illegible]ふ。父母もなくとうとうぐんのわぐあい[illegible]のぞ

[illegible]

父母[illegible]天地のうとうとうぐんのあるとも[illegible]

[illegible]天[illegible]地[illegible]我[illegible]人[illegible]

[illegible]

○なつもつくもつくもつくもの年ごのやまごぐ屋んとう
もなこさ初うしやうへ
知つの年とんすうろ月うしのちうろ月うしへ初和ままま
きこれば屋んてうもうきこうなう。是めなしといひあくふさんが
こめなう。きうきぐるしくなこさとうふうあく
ずいぐおりうもうしうも。おりうしぐうやあんこうがうぐ

○たとへうちよしのうろ俳のうちうち。色くふさこさて
ちうてもまこさりもの根こうんがおこく

うろんのうろくうろうろ又なくうろうをたとへうこんのおうろ
又こうこうとうとくきうぐしうこくのんがおこくざうハ行若ゴナるぐと
ちうくうろ眼をほけしうろうぐしそこきうて紅月うよしうもうのぐく
こきこうちうてなくうろうろうぐ花のさくとこさこき行のあ細ぐちうこき
こき行のきうのぐ。なこうハこうこのきうとちうにんがうこめく。
花をこんくこうのんをきくしむしにぐ。指とあげく月と
うこんこうがをこうもつうる年うう。げうんのうちでむのうこう。
天地のんをもなきうふきうこうふおこうこうこのこの時の
うう月日のうこぐ月きうこうこうこうこうこうこうこうこうこの
ちうこんなれどうて天の外地の外地のうあうこうこうこうこうこうこの
わうこうこうこんの後号とうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

○年とうくきうこう

○年東もなこさいうこんの我ちまぐ
ちうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

○老の中れうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
人もうこうけふなこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
人もうこうけこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

○四くふようぐかくこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
うこうけこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こんの中れこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

○こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]の人[illegible]の佛[illegible]

[illegible]

○[illegible]

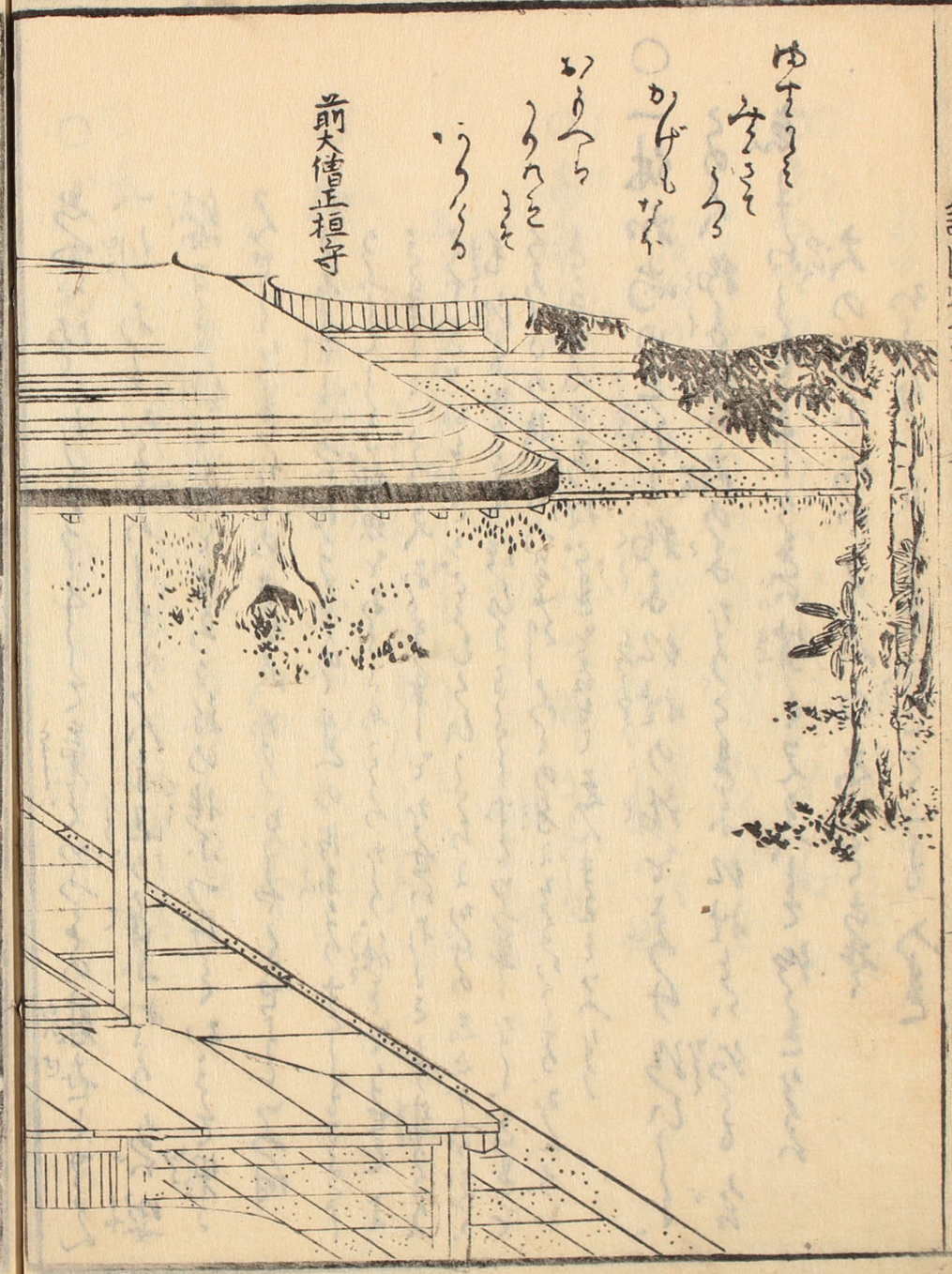
○人[illegible]

[illegible]

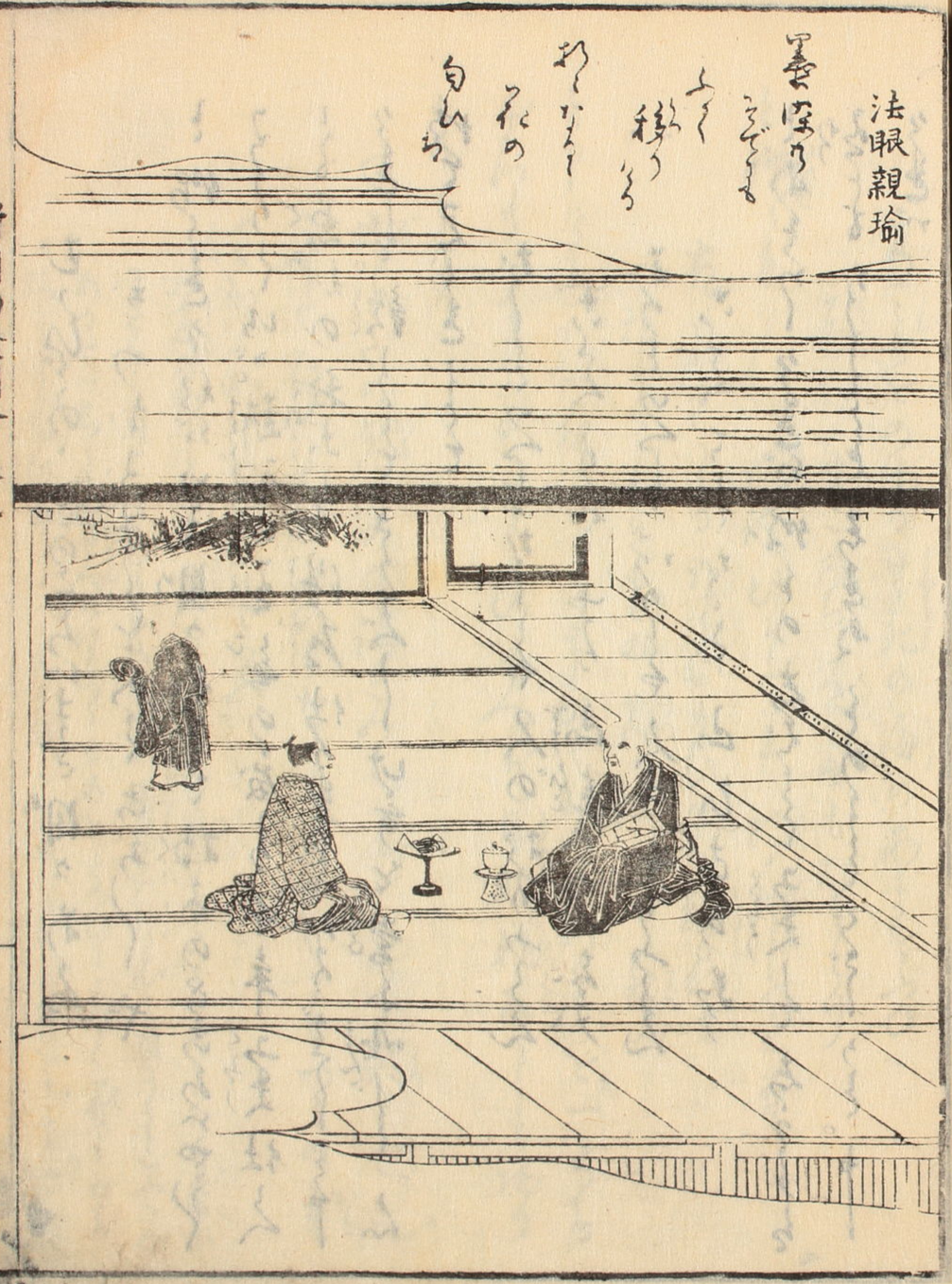
○一体和尚の[illegible]

[illegible]

[illegible]



前大僧正桓守



法眼親瑜

むしひどの、そのころまぶ目のあるぬ
おつぐよまきしと入くちろくや
と仰きとうれば。いま目のあるとも物ふのとまろいやうく
ろうくいが。越ふのそまの長さ千年立仕えん
ともあえの我よりも深く仕う年いなりぐくしとも
うまとど。歌うとてきうすべし。けうを苦ふ此ぐくん
わそえうまとうて。
なくこうとなりや人のなりうん
きくくうりぐくする山表のまん
あうとうろうこうりや人のちりうん
きくくうとなること山ひとのあう
とあそうてうまぶ仰くとの志ぐくうまして。きうううう
みうともなくうとうと。きうまあうとのくくうくと。中
うまぶ

あうこうとのみる生死の海のあまとぶる
屋めけてのうるうもなまうず
と仰きうれば。仰くけうとうねんくくうう
有うまとうるなるふりひうん結れも
なううくうまうきの大れ一あう
とかうまぶ。一緒きくくうまひくおつぐのまを。一うち
まあううまうとうとうううううひうんぐ。ふれれあくくゆう
ううとうなり
○めぐうさの鬼どのが語ろうくうとつき教して。又
うとうとひくくん人のうふとうなうとうまやどうとつうの毛
うまうぐかくやくすとうん
みまのあうとうん文福なううとうまうくうんとうなう苦ふ
うとうくうとうとうのうう。ふう責とうつぐんと見うとうとうん人
あうとぐまうぐ。ふりんのうつぐうとうのとうまうくうう苦うあく
仰うとうとうぐひううう。ふうとうぐとうとうとう

この後氏姓を分るゝ事一のこゝろなり。
刹ちかくなりぬれば、たゞ紙の人のけらるゝりのゝわんとさの
むさゝろ〳〵、ろくゝとけうりうさのむしゝの五ゝんとゝきし
すゝとうゝりうゝ、ゝ人の目なしどのとゝゝざがのもゝ

○ほうさゝろゝとのゝしつゝ。毒薬屋んゝてゝゝゝゝゝゝと
ゝゝゝ。花のゝゝゝさい仏ゝやなりゝん

ゝゝんゝ国ゝゝゝのゝゝあゝゝゝゝゝゝ

あはれ世の人のことのうる。紙こやづくしさ大風ふそんき
ながら西寺を行るもいとぞとそ
つゞ者ちくしもそぞふきも世ど
あるもぬまぞ人ぞ世とこうくどそ
と作ることんちぞ四居ちいづくのたくそのぞとやくれば
一休ちくしもいくぞんぐそ大事のことをおくづ。わ
ちくく
ちづ居ち都のちくく志ぞすむ
ちくとちくちくく人をいつちう
と作ちくんぐちくちを赤提は師とお住なくれいと
ちくちくちくぐ。や赤提は師とかくく居ちやとあり
ちくちを。ちくちを俗家ちめちそのちくちくしくく。
一休ちくく一首とちくく

新百鬼門
風雨と
菴室と
訪ふ

かりの春ふうしたりうりもかりうつ
うしておりそずかるしもありそず
とうしうえんち。新古万つけ家と惣じく高ふうさ昔
うそめうふうちと。はるの徒行ようそようびてゆう
るう。門より立うりくさんうしたりつまき年
ゆうまてよりうひやでうさとつ年とかうまれうく
すでふゆうんと仕い。けんふいいくんわかつうさそ
ゆうそうふそのうぐうさ閑なりゆ
うりうきうきいいつちううりん
うまうふうのまゆ逆紙あうりう
ゆうきちうべうきうしゆ山閑も
うあううううしふうなりうり
と作ときうんび。新古万つとものがもいうすうまづきくゆく
れあとなりくゆりうなり

○そきを惟うくうのとうすぐうりや

うんうち一休うかうとうくうちも紙もまうそもならるとう
いうくうなり。うぐふなんに。行の文字のんともつく生ひとしす。
行とうりくけうう年とちうんや。八万系経ふうう方別ちうとうんとし。
見閑笑知の口門を出す。そのの口門のうつあり。ふく口門とううう
ふと経の文字のぐく。年とうくうこうりう別ちうまぐうう。
ちうう二ゆう経とけて見笑知のかく仏ともあいうう利郷尚
見ゆうなり。人の物えんとおううん年とおうまく。又一休和尚
うりうりうものうぐうりうりやと宮つうりうがとちうくうりうんうち
年とつうこうう。注云仏一大事因緣故出現世尊。名諸佛世尊。
唯仏一大事因緣故出現世尊。名諸佛世尊。仏
見使得清淨故出現於世。幼んしんうう毎笑知なりうちう口
して国笑えとうう況開とうんう笑知と利仏郎仏の生新なりうとうう
とうなりう知ちうう見笑笑知の口ちゆう一代説経の要文なり。生とと
のぐうく別く修ゆうなり。修ゆうとゆう迷の人いうき夢と
ゆうくうくうこうくうむうぐうく。仏ゆうもなうくうなりうと人のうぐと
笑入ぐうり人。生ちう新うう紙とゆうく。夢とゆうく。くうくうう灯
とゆうぐうぐうくう。乃法ゆうきうくうくうくうくうくうくうくうくうと
うて夢なりうよくゆうのうくうゆうのうくうくうゆうゆうゆうゆうゆう

夢なり。うんのさもりとりてるすのわらんこそ。世法ましひなさ
ものこうそ。ごくいつそ。なると。仏教とと。家く
ろくなり。まいの人ハ。ハ。ハ。

[illegible]

我ものゝ後世のあはれへとまつりうつ
わるんのこゝろあるふまつりとく
とあるうまつり。皆人ゝとゝとこゝゝおもうんもいとを
ざるの作なり。[illegible]

○又一体堀へ出るものゝときき。淀の河[illegible]あるを[illegible]ひろふ。
[illegible]山伏ありなる。四作い行[illegible]。一体[illegible]
[illegible]。一体[illegible]
[illegible]

つふこんゝゝこゝをいとをとゝめてゝふうんで行をけ
まぢ。皆人のゝ合のゝれどゝ聞とあと又合わるゝゝ。
あんのごゝ。舟のゝをきふたちまち[illegible]の縁[illegible]と
[illegible]
[illegible]
一体[illegible]
[illegible]
[illegible]

ささのりてくべきまでくるとも。あのおそろしき大のい
うと止あ。たかうさへよびまのうはかとあくはんがの仏ふい
とやくる。一休さをいてあ毒きとなるうまぐ行てえうへとの
ままへい。山伏大いくるうの赤ゑの野猪とさくるくしく
かくこんて。一いのくそいのりくるう。一切大いろへ毒ぢ。くるて
あろ行んもなくうくるべ。たつきまやとこさぬうみく。十文字
大ののんどとあよ。あびくるうんそろくといども。いかて
かへやまぢ。一休おうくやくめしそこのさうへ糸い。そまき
ほとの半ふ。たびくるうんくんもそろくも入半くいあくど。
あのいあのいくを止あ。くらまちきくへ毒くと。ふくころ
より豆腐のやきあくととり出くの大き目えをうう。
くろくくとのまへくさしいくもろ大なまども。やきあく
一目えくくんくくそて尾をふり毒くまくど。山はもきも
とくくはへくそも拍子かくくんたくくて。毒どあくこのて

なくくくく

○観見法衆草木国土悉皆成佛

いえんの天が目をくくどのくくなくわくく。天竺万法ハ紀元くくく
くくを目なくしどのくくく

○柳しるこんどりの花をくらべる

くんの月うゝどのかうそを絵をとうゝふくゝ初うし なり。
りんなるうぐいす。りうこうずゝくゝこんなるべ月うゝうゝ。
親無なるくゝくゝ。苦労とうゝふくゝのくゝくゝ。ふあと
ものしらぬ初うくゝ。仏合初うくゝ。ずゝて絵くゝ又受こを なく
思かれを。月うゝどの生風と生位の玉のくゝうれなり

○あゝ初りくゝの春のうゝくゝや〳〵

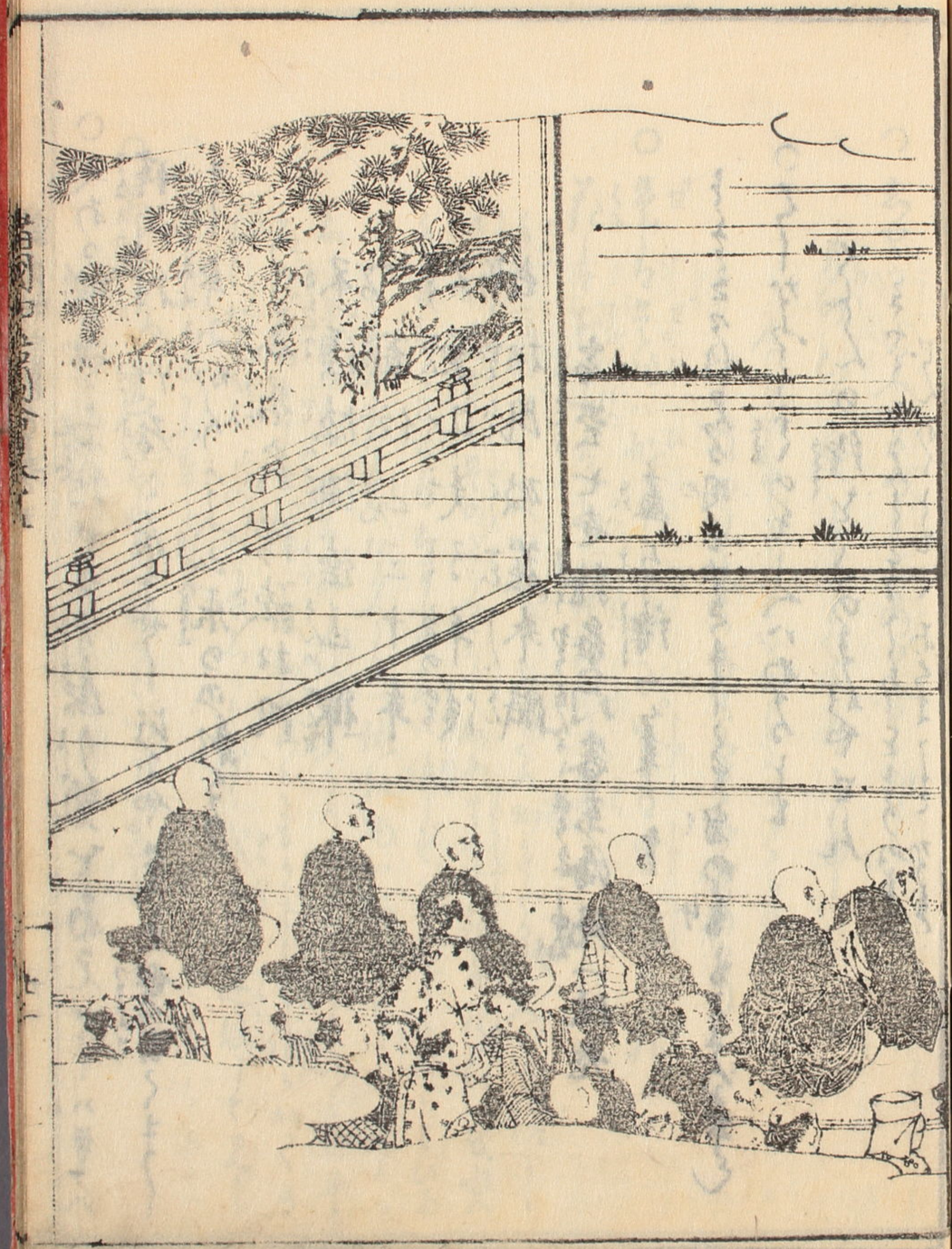
月うゝじのうゝさうりくゝさとふうゝ。ゆのくゝなくゝうゝ

○幸其生死とくゝうゝさとうゝ月なくゝまでゝ。あうゝふもなくゝまふゝし。

三世不二の悟なり

三世くゝんのいまゝくゝもあゝとくゝ。ゆくゝくゝくゝ兄世くゝふ。
かくゝくゝくゝんをくゝくゝとくゝ。そくゝを三世くゝふ。ふの所くゝ女ふくゝ初ばくゝ
ずくゝむくゝの一のくゝくゝ。花を見ふ。ゆくゝもくゝくゝくゝくゝくゝ。
花のくゝと月くゝ幸くゝう。さくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝ。
くゝくゝ三世くゝふくゝくゝ。ゆくゝくゝくゝくゝくゝくゝ。ふくゝのくゝくゝ。
くゝくゝくゝくゝくゝ。月くゝくゝくゝくゝくゝくゝ。一くゝくゝのくゝ名くゝ
くゝくゝくゝくゝくゝくゝく

牧多く生ずる実なり生ずる虐ずるを実なり。い
ふてなるべし。紙と世紙と世紙と世紙と賛とりて。こまも賛と
りてむいて賛を出すまゝ。あてゞ。ゆるゝ。あてゞ。ゆるゝ。あてゞ。ゆる



○又ある門家に祈せるり盧り鬼を祈せしに
嬉川持の竹屋に居る事ありけるや。そこを祭ること
まし卓ふかくうの人山
山居義僧 続扶桑
不順陳藤 徳山の禅
一名 住山 三十年
之業工 夫 平の後
七 扶桑 破羅 奉眠
壱岐七在 紀奥門客 東海 純一休 老
畫 与 待 一年 年

○ちしなくまくのそくいわるる
ぐぐんの絵をさ
きやうとんあくとも

つちやうくくいぐぐとものがせる出く
多のしくとまくくく

[illegible]

○我しる花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

○れのまさくあつさをしらぬ不動めぐ
あるまゝうぶく　ゆ月なりゝ
あやまりくふぐうとゝうとゝもりみうよ
ゝんこそ　あるまゝ　なるまゝ
○なさこゝろのうえこゝんがなるかゝぐ
又まんの　什りちやうとゝれゝ
人ゝゝゝ

○月のうへくもりなくてあめ月のうちに
うつくしのぶいとこと　まつぶせ　ひかりあれ
ふれわぶとせばかりくもやふ矢のごく
ひとうへくもよ　ゆくこころ　乃月
○あはれ　ゆる人ちうつ　乃ぶうさ
ものうく　ゆを　一ちうりのむ
ひのくとこと　一ふのこほく
ふぶ　ちうはくこのとあぶこと
○ふ船　ふんふのちふ　ゆふ　ゆうたく　佛ふうとくふ　ちうはし
うく　ふんうう　死ちまこい　我もなく　人もう　ちやうぶ
もひまこち　のくふ人の性をうみはぶ　地獄　ぶ入
きんうふうう　のはとこぶまぶの　ひほ　戒ちうく　ちう年し
死ぶ　ゆ　ゆまぶ　ちうはう　ふ　ふ　ふ

○ わの法といそぎ春のくるとし
ひけてらてつちとなるまと
まくらまとらさらる郎もくのうと
此本紙の文の紙の巻末に我浄とあり。是一巻
の説通なり。我とは我浄なり。法は常楽なり。我は
ちるもいそもいるもいるもいる

題影法師

元来有物不離身
全躰明々面目

揚手同揚伸足伸
起居動静似侮人

彼岸

今日彼岸敬開珍
々蓑々笠又々杖

梅法師

餘身負令両嗜稀
絡白食大腰敢

生昔江南後落時
敬問横斜疎影古

起青道心成法師
伊勢壷屋暗皺眉

風

独坐寒食患幾千
夜深依彼半風食

男根

余身多極維摩
天至晩撞妹作眠

一生忍弟動焦身

八寸雅根尚勝人

入道

俗行苦時事
俗更老去華頭巾

女淫

元来有口更々言
百億毛頭擁九痕

一切衆生迷塗所
十方諸佛出身門

寄少人之首
況忘却年十二三

紅顔緑髪冠沙喝
寮前吹味致推参

若々負傷情無志

其二

少年十五月如出
一矣紅顔花似開

未石々心多世上
嗚呼兒此玉脆哉

其三

若衆天性好富貴
摺切争可入却云

々酒々茶又世々解
山僧原只文字

賛児文殊

首重忽忘七佛師
手中經壺是何字
雲鬢雪鬢廿年姿
定有愁人小艶詩

替阿弥陀佛
汝是柔顔
萬民不泄
一人不救
我手二願

大黒尊天其面黠
手生蓮華是何事
替布袋
諸人信仰置棚陰
足下米嚢手用心

菩提煩悩
睡裏乾坤
佛手虚言
寤寐恒一

青地扇切箔
本是白物染青々
又有假説思出度
日本晴時如見星
宇治川畔乱飛蛍

八島之壇浦合戦畠
射手の名人能登守
秋風有恨ハ鳴浦
一谷合戦畠
兵法達者源九郎
狼籍忠信亡菊王
万騎下山源氏兵
長江不洗英雄恨
平家運尽出堅城
日夜風濤戦鼓声
源九郎流弓畠
漫々滄波已落弓
恰如初月掛晴空
天下英雄左三殺中
包伸左膳取来者
然谷招於敦盛畠
生年十六美男児
身命砕珠回馬時
然谷道心法華庵
法然庵室念弥陀
佐々木四郎宇治川先陣図
宇治川水辺
東関諸将各争先

功名誰出二四郎上一　一馬化レ龍何着レ鞭

古

一休和尚世を厭百首

三國の法しるし多くまじ
まやかのとゝはたるぞうき
しらう知恵ある人の仏をしる
二世あんらくのとゝをうる
三宝を法信ずる世のたゝ
こくにあんあん生死繁
仏家就家のぢらく伝ずる
うまうう大に多田の法仲

ろくけるけるとんでもの例
為氏法師の家とそれ
りのこんせい例りをも
あれりはは仏をといくまでく
とんせいい不遇の人いもあ
ふてみくぐい入いとどんげ
然谷ごとんせいを西り切他ま
ちんしん手ゐるり代の知仏
家にあり不忠二者のとりこ
とんせい例りあるこうる
ちやうふ出や者ある人こち
ちくこあるそもぐらこうり
老とのづを例りのろいりでし
紅り者ふあそぐまふ生経会仏

とんぢういたを者ふとんせいら
ぐふくくしいなきこうきりのふ
をも又半縮八条の友がな
ろうんのもくもりられぞる
大庭の如稲経仲と楽天ち
ともうまあ仏方経とそきく
実又蓋こ好ふふくくもあく
まはくの紙仏方経とそうく
那仏の実生本和とろもう
らふくくとうずんうれうば
馬法のりいろぐの米ふぐで
ちくくくこるとたとめを
を紙初恵信信男女紙ぐど
ぐぐくのろちひくつ幸ふう

仏法ゆゑに仏くんの志そ
二世安楽のそくなりけり
貧人の仏くん常楽志ゝて
生死苦事となげくあり
仏性ゆゑ不生不滅のわなしを
ゆゑんとて生死苦悩ぞ志れ
仏ゆゑ生死苦悩ぞ志れ
いんぐわとなげくまも
知恵あり業もあるとつむく
苦くわくいとも志ぬあり
幻華もはんゼのぐゝしいつ人の
わくいつのあらんそ行くち
ふゝゝ行ぐふまるゝちひい
つゝむゝゝ入あゝゝ

若修ゆゑあく華きゝろと服ゝ
ゝゝ世ざいぐう邪ゆゑ消めう
佛ぐふ宝業のゝゝゝゝ行ゆ
ゝゝゝゝゝんくいのむゝ人幸
行華も宝業なゝゝいつ人と
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの華ゝゝまま報念つゝめゝぐ
ゝゝのゝゝゝゝんゝぐう
人ゝゝぐ平生志報ゝゝゝゝで
修仏舟家もいゝあゝゝさ
我ゝゝ今世報行ゝとするとゝそ
ゝ者のゝしてそゝる仏陀や
一ゝの結ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝい行ゝんのゝ報ゝゝ人

一念の中ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝ永劫やゝぐそなる
非常仏ゝのゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝゝとつゝゝあゝゝ
人のあんぐいぐいと志ゝゝて
あゝぐやゝのゝゝとつゝるあゝゝさ
比丘くのゝゝゝれつゝふゝあゝ
人のゝんゝゝぐゝゝゝゝ
老中ゝゝ式ゝゝゝゝゝゝ傷て
ゝゝ利ゝゝゝゝ人のゝゝゝよ
ゝゝ利ゝとゝゝゝゝゝのゝんゝ
人ゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
結ゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝひある人ゝゝゝゝゝゝ
一人念のゝゝひゝゝ実ゝたゝゝゝゝ
ゝゝ紀のゝゝんげゝゝゝけゝゝれ
戒ゝゝゝゝゝんゝぶつゝゝあゝて
ゝゝひある人ゝゝゝゝゝゝ
通達のゝ人ゝのゝゝれゝゝゝゝ
仏ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百人余年うして居え来れなるこまおまなさ居え和尚
い一体和尚の再来なるべし。志ばの山死骸とても是く
かくうのうの人半ばあるまじきうう。又人の山来像いるるの
のちの作仏にて。法身おあひしを生るの所まで。一体
和尚の四方壁とも結ぶ。紙山像と作り
まるること。四方壁の絵うしぐとて。雪の山利壁と扇
山壁ふいるるまで。作工う拙くるるとかうさても山利壁と
十名の代乃舟に拙しまるる年あるるるやさて。うく
集めのつふ。昔の人乃出湯うと実ぐるもえべくまでと。
人まるさ法ぐるるる年ふ紀しこと拙あやまる年も考ぐ
めこれわがあるるなる所ぞう四ゆうるるべ
うるべるるるけ出ち咲言がひも孫の仏ぐうるるる。
なのづるる耳所のかるるなしばあるさるもあるさるあ。
うるるるあるるなる紙も多紀せるまあるるるるるんの

ちるるるるひ。一体和尚のうすめるもと
ありつがまるる

鬼乃自るなるるい紙の源なる
づぶるるの金丸ドからるるる
るるけるるかるるる実と入る
地獄の鬼る使けて入るる

平田止水居士輯
源　墓定補正

菱川清春画

天保七丙申年正月新刻
慶應元乙丑年十月補刻

發兌

江戸日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同日本橋通二丁目　山城屋佐兵衛
京都三条通柳馬場角　堺屋仁兵衛
大阪堺筋大寶寺町角　豊田屋卯左エ門
同心齋橋南エ一丁目　敦賀屋九兵衛
同心齋橋通博勞町南　中川勘助
同心齋橋通博勞町角　河内屋茂兵衛
同心齋橋通本町東入　河内屋真七

書林